

**がま研
かわら版**



第 25 号
発 行
筑波山がまの袖売り口上研究会

季節を問わず楽しめる筑波山

前 茨城県自然博物館 学芸主事
小松崎 茂

筑波山は季節ごとさまさまな花を楽しめることができる山です。早春の梅まつりやカタクリの花まつりは見事です。が、これから見頃を迎える植物もたくさんありますので紹介したいと思います。

夏の山頂付近の斑れい岩の岩肌には岩に着生する植物がみられます。イワタバコは灰色の岩からタバコの葉に似た濡れたような緑色の葉が出ていて、そこに紫色の可憐な花を咲かせます。

男体山を1周する自然研究路を歩いていると羽根つきの羽根に似たツクバネの若い実に出会います。ツクバネはツガ、モミ、アセビなどの植物の根に半寄生する植物です。ツクバと名前に入りますが筑波山ではなく羽根つきからきています。



イワタバコ (イワタバコ科)

を鈴なりにつけているのはソバナです。花もすらっとした姿もやさしい印象がします。



ソバナ (キキョウ科)

ブナの林の斜面には黄色い上向きの花を咲かせたタマガワホトトギスの群落がみられます。青紫色のラッパ形の花



タマガワホトトギス (ユリ科)

秋の筑波山はさまざま木々の紅葉によって彩られます。オオモミジ、ウリハダカエデ、コハウチワカエデなど十種を超えるカエデのなかまが生育しています。自然研究路を歩くとさまざま形状のモミジの葉の赤いじゅうたんの上を歩い

るようです。茶色に色づいたブナやミズナラ、クマシデの葉やアオハダの黄葉も綺麗です。紅葉は山頂付近からはじまり、麓に向って下りて来ます。紅葉だけでなく足元にも綺麗な花が咲いています。サラシナショウマやシラヤマギクの白、キバナアキギリやアキノキリンソウの黄色、ツクバトリカブトの青と色とりどりです。



ツクバトリカブト (キンポウゲ科)

草や木の実も実りの秋を迎えます。ミズナラやアカガシなどのドングリ、アケビやサルナシなどの実は森の動物たちの重要な食料となります。足元にはオオナルコユリやユキザサなどユリ科の植物が黒く丸い実をつけています。

つつじヶ丘付近のススキ草原では、タムラソウやワレモコウ、ツリガネニンジンなどの草原の植物の花が咲きます。

夏から秋の筑波山もみどころ満載ですので、ぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。

小松崎先生は平成二十四年度の総会時に「筑波山ブナ口上」と題してご講演をいただきました。(現在は土浦第二中学で教鞭をとっておられます) 植物の宝庫と思われる筑波山も、ブナや貴重な野生種がその姿を大きく減らしつつある現実を憂いずにはいられません。

さる六月三日、がま研水戸教室の活動拠点である那珂市で『カスミガプロジェクト』という地域活性を目的とするお祭りが開催されました。雨天の場合は中止となるため、天候がとても心配されましたが、関係各位の熱意が通じ、曇り空ながらも暑いくらいの陽気となり、人も絶好調。私はその『カスミガプロジェクト』で、念願のデビューをすることができました。

平成二十二年三月に見学↓即入会をして練習が始まりましたが、使い慣れない言い回しや、一気にたたみかけるような読み方などをするため、基本の口上がなかなか覚えきれずに苦労していました。先輩方の個性あふれる見事な口上にあこがれつつも、焦りは募るばかりでした。でも、清水先生はじめ星野さんや教室の皆さんの温かく根気強いご指導により、ようやく刀を使い衣装を用意するまでになり、デビューを後押ししていただけることになったのです。

本番では、赤いタスキをきりと締めて「サアサアお立ち合ーい。」猿まわしや釣りゲームなど、人気のアトラクションに流れる人の波を止めるべく呼び込みの声を張り上げた甲斐があり、たくさんの方が集まってきました。清水先生ががまの油の由来などを話始めました。緊張はもう頂点に達しています。でも、泣いても笑っても一発勝負。少しの失敗ならご愛嬌。

デビューしました

水戸教室 加藤 信子

まさに脂汗をかきながら開き直って演じます。教わったことを思い出し出し、身振りを大きく、見せ場はしつかり。必死に声を張りました。終わってみれば、清水先生から九十点との採点をいただき、御祝儀を差し引いても、まずまずの出来となりました。



まだまだ基本の口上だけの状況なので、少しずつ歴史や由来を勉強し、幅や深み、味のある口上ができるようになります。たいと思っています。恥をかくことを恐れず、ただただの機会ではできるだけ参加し、精進していきますので、今後ますますのご指導をお願いいたします。

懐いアメリカにて



大川 ちよの

九時間のフライトを終え、午前十時二十三分、サンフランシスコ空港へ無事到着しました。

不安を感じながらの入国手続きも無事終了し、五年ぶりに娘たち家族との再会。四年生と一年生になる孫が大きく成長しているのには、びっくり

しました。「おばあちゃん、いらっしやい！」と流暢な日本語で迎えてくれ、大変嬉しかったです。空港から一歩外に出ると、片側五車線の道路がまっすぐに続き、周りの雄大な風景にも国土の違いを感じました。

三週間の滞在でしたが、その間何度かアメリカ人の良き人間性を垣間見ることができましたので、紹介したいと思います。

サンフランシスコ市では、ジャパンタウンを中心に毎年、桜祭りが開催されるそうです。

今年は「がんばっぺ・日本」と書かれた垂れ幕があちこちに下がり、その周辺には募金箱が置かれ、桜祭りを見に来た市民や観光で訪れた人々が並んで募金をしている姿をみかけました。

昨年三月に襲った東日本大震災を、よその国のことではなく、自分たちのことのように受け止めているアメリカの方々には深い感銘を受けました。また、マナーの良いのにも感心しました。道路に空き缶や瓶などを捨てる人もなく、車を運転する人は歩行者を通してから車を進めるなど、最近の日本人が見失ってしまった道徳心が、小さい時から身につけていると思いました。

学校に行ってみると、授業に入る前には国歌を歌い、国旗に対して敬礼をしてから席に着くという光景にもびっくりしました。日本ではとても考えられないことですが、アメリカでは小さい時からこうして郷土愛や愛国心を育んでいるのだと驚きました。そのような教育が良いか悪いかは別として、小さい時から郷土を大切にしている心、国を思う心を養うことは、大切ではないかと思えます。

今回のアメリカ訪問は、私にとって大変有意義な三週間でした。

好天の五月十九日(土)、昨年は二度も天候に恵まれず延期・中止となったハイキングが開催され、十一名の方が参加しました。集合場所の旧筑波鉄道小田駅前には大勢の登山姿の人達があり、駅前の駐車場は既に一杯でしたが、係の方が奥の空スペースに順次案内してくれるので何の心配もなく駐車することができました。今日は、宝篋山登山スタンプラリーが行われているとのこと、受付を済ませた人から既に出発しておりましたが、人と車で昔の駅前の混雑を呈していました。

さて、がま研メンバーは幟旗を目印に集合し、林会長、案内人である郷土歴史研究家井坂敦實先生のご挨拶のあと十時に出発しました。コースは、「小田城跡」三村山不殺生界碑「八坂神社」と平坦な街中を歩き、国道一二五号を横断して、少し傾斜のある宝篋山麓を「ザル池」地蔵菩薩立像「三村山極楽寺跡・五輪塔」小田休憩所(昼食)「磨崖不動明王立像」を経て再度国道を横断して街中に入り「延寿院薬師堂」後生車「龍勝寺」長久寺」と歩き旧小田駅前に帰着、十六時に解散となりました。井坂先生からは所説説明を聞きながら移動し、各ポイントでは更に詳しい説明をお聞きしました。美味しそうに煙草を

新緑の筑波路めぐりハイキング

歴史のふる里 小田を歩く 佐藤貞弘

煙らせながら、どんな質問にも丁寧に答えてくださる井坂先生は、公民館等主催の歴史や民話等講座が毎回すぐに満席となる評判の大先生なのです。暑い中有難うございました。

「小田城跡」は、中世とよばれる鎌倉「戦国時代に、常陸国(現在の茨城県の大部分)南部に勢力をもった小田氏の居城跡で、特に南北朝時代には南朝方の関東における拠点でありました。昭和十年に国の史跡指定を受けましたが、筑波鉄道の開通が一年早く城跡が線路により東西に分断されています。これらは、平成十六年から始まった保存整備事業によって、平成二十六年には中世の小田城の姿を復元した歴史広場として再生される予定です。

小田城跡から少し離れた山裾には、小田氏の擁護のもとで西大寺系律宗の僧侶忍性が布教を行なった三村山極楽寺の跡があり、全国的にも珍しい鎌倉時代後期の本格的・巨大な石造五輪塔が残されています。

また、寺跡へ至る道沿いには等身大の一石に本体及び蓮華座、そして錫杖、宝珠、頭光を高く彫り、背面を残して奥壁とした地蔵菩薩立像があり、俗に「湯地蔵」と



極楽寺跡 石造五輪塔

双体地蔵 (だんご石)



称し、小田の人々が愛護してきたお地蔵さんです。街中の民家の敷地にもさりげなく**双体地蔵(だんご石)**が安置されているなど、子供の守り神である地蔵信仰の古い地域なのです。小田は、今は静かな村里のたたずまいの中にありますが、かつては政治の一大中心地であり、また仏教文化が隆盛を誇った街です。多くの寺院跡と貴重な石塔・石仏等の歴史遺産が大事に保存されているこの街を、山桜の咲く季節に再度訪れてみたいと思っております。

平成24年度

がま口上講座

開催日：① 9月29日(土)

② 10月13日(土)

③ 10月27日(土)

④ 11月10日(土)

計4回

時間：午前10時～正午

場所：土浦市立『小町の館』

定員：40名

受講料：無料

ご友人、興味をお持ちの方がおられましたら是非お誘いください。

11月の出会い

研究会の最年長にして最も元気。客を手玉に取るのも、玉を正確に打ち分けるもお手のもの。魅力的な口上で皆を魅了するのが、この方！

私が六十歳半ばを過ぎてから、出合ったことが二つあります。この出会いが私の後半の人生の、健康・生きがいづくりに役立っております。

その一つが、「サーサーお立合い、ご用とお急ぎでない方は・・・」で始まる『筑波山がまの油売り口上』です。

突き抜けるような青空の下で、がまの紋付・袴そして鉢巻き姿で、語る人、聞く人が一体になっての口上は、まさに常陸国の郷土芸能の圧巻であります。我が家に古くから伝わる先祖伝来、あの正宗がひまにあかして鍛えし名刀を振りかざし「一枚が二枚、二枚が四枚・・・、嵐山には落花吹雪の舞とごさい！！」口上はまさに絶好調、鳴り止まぬ万雷の拍手。そんな晴れ舞台を夢見て、一生懸命がんばりました。でも、なかなか思うようにはいきませんでした。

私をはじめ林会長の講座で、その歴史的な背景をふまえてのご指導を受けたのが、平成十一年の秋だったと思います。以来十数年、いろいろな場所でも口上披露の機会を与えていただきました。平成十三・十四年のがま口上全国大会・筑波山のガマ石の前での口上・つくばね猪鍋(ししなべ)まつりの舞台で、また夏祭りの浴衣姿の前で等々。いずれも緊張の連続で、今でも懐かしく思い出しております。

私は、常に次のようなことを頭に置いて口上に臨むようにしています。

- 一、「ここぞ」と思ったところは、ゆっくりと十分「間」をとって
 - 二、テンポよく、大きな動作で、分かりやすく
 - 三、口上にメリハリをつけて語りかけるように
- マンネリ化にならないように、折に触れて勉強していきたいと思っています。

さて、もう一つの出会いは、ニューススポーツです。ニューススポーツとは、気楽に楽しむことのできる『生涯スポーツ』で、いつでもどこでも簡易な道具でプレーできて、仲間との交流、家族とのふれあい、健康・体力づくりなどを目的としております。茨城県でも本腰を入れて、普及活動に取り組んでいます。

その具体的な運動の内容は、ゴルフ系の種目や、目標にいかにか近づけるかを競う「カーリング」的なもの等。そのほか室内外で行われる種目がたくさんあります。どの種目にも適度の運動量があり、安全性が高く、ルールが易しく、そして子供から年配者まで楽しめるスポーツです。

県内のそっちこちに行つてニューススポーツを楽しんでおります。

渡辺 由正

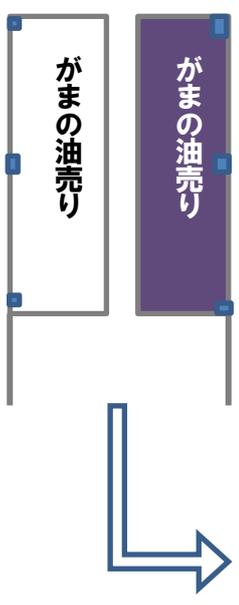
会費納入はお済ですか？
 ゆうちょ銀行 口座番号
 10690-38833081
 筑波山がまの油売りの口上研究会 まで



予 告
歴史探訪・忘年会の予定
 期日：11月17日(土)～18日(日)
 行先：塩原温泉ホテル
 参加費：10,000円
 集合：新治庁舎駐車場
 詳しくは後日ハガキにてご案内します。

寝不足になりながらも、歴史の証人にならんと連日テレビの奴隷だった日々。
 皆様も涼風とともに元気が戻りますように。次号の原稿を心よりお待ちしております。

編集後記
 編集子



幟旗の注文を受付けます

① 紫地、四色、がま付き
4,000円

② 白地、黒・赤文字、がま無し
1,500円

*会から補助後の自己負担額です。

発注は???

- 各練習会場の代表者または林会長
- 受け取りは11月以降で、発注者にご連絡いたします。

申し込み締め切り：9月30日(日)

紫地は右乳・白地は左乳が基本になります。特に希望がある方は申し出てください。